



ASAHIYAMA ZOO

発行所
動物資料展示館
旭川市
旭山動物園
☎ 36-1104

2006・成年スタート!



今年も旭山動物園は動物の素晴らしさをお伝えできるよう頑張ります。



この中にイヌ科の動物が数種類います。ちなみにそのおもな特徴は、細身の体に長い足、ふさふさした長いしっぽ。発達した嗅覚に、とがった口先です。また、爪は引っ込めることができます。実際に動物園で他の種類の動物と比べてみると何か発見がありそうですね。



今年も旭山動物園は動物の素晴らしさをお伝えできるよう頑張ります。



今年も旭山動物園は動物の素晴らしさをお伝えできるよう頑張ります。



今年も旭山動物園は動物の素晴らしさをお伝えできるよう頑張ります。

旭山動物園で飼育しているイヌの仲間は一体どれでしょう?

旭山動物園も穏やかな新年を迎えました。今年も昨年をさらに上回る多くの皆さんにお越しいただいております。さて、今年も成年です。旭山動物園のことも牧場でもイヌを飼育していますが、ここで早速問題です。

右の3つがイヌ科です。今から約600万年前には共通の祖先がいたと考えられています。エゾタヌキは、ずんぐりした体つきに短い足をしていいますが、イヌ科に分類されています。ちなみにユキヒヨウはネコ科。イヌ科とは違い、鋭い爪を出し入れすることができます(ネコ科で唯一爪の出し入れができるのがチーターです)。ホッキョクグマはクマ科です。イヌ科やネコ科がかかとを浮かせて指だけを地面につけて歩くのに対し、クマ科はヒトのようにかかとをつけて歩きます。

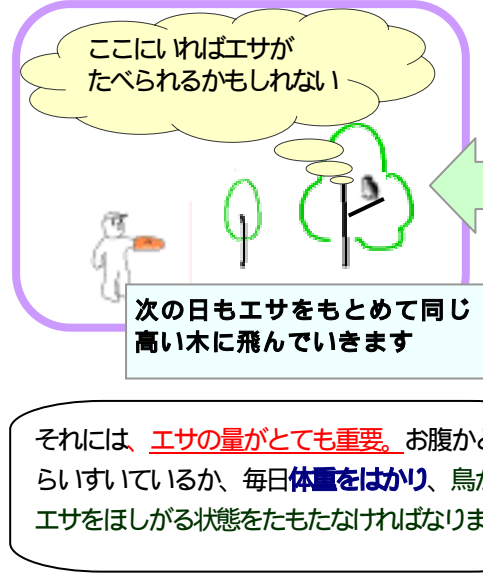


腕にのったりおいたり何をしているの?

あざらし館では開園前の準備の一つに、オジロワシを囲いから出す作業があります。いつもは岩場にくまれた止まり木にとまっています。朝、朝晩は陸地の囲いで過ごしています。朝、そこから止まり木に移動するかと思えば、なにやらオジロワシが体重計ののっりにいます。また飼育係の腕に乗ったり降りたり。これは何をしていますのでしょうか? その前にちょっとだけ鳥ってどういう動物なのか聞いてみましょう。

おしえて! どうぶつえんのお仕事
12月からあざらし館で展示されている1羽のオジロワシ。悠々とした姿を見ることが出来ますが、ここに至るまでには長い時間と飼育係の工夫が積み重ねられてきました。あざらし担当飼育係の新たな挑戦をのぞいてみましょう。

この、鳥がエサをとるために備わった習性を飼育係は利用します。エサを食べる時、鳥が学習する環境をちょっとずつ変えてやることによつて、鳥にかかる負担を少なく新しい環境に慣れさせることができます。



たとえば、高い木にいるときにエサを食べることができたら...
オオタカの飛行訓練をしている飼育係にきいてみました

鳥はとても賢い動物。エサを食べた時の様子をしっかりと覚えていきます。どこで食べたか、そこでどんな音がしていたかなど、その時の雰囲気を感じ取り、それらの情報をエサと結びつけて学習します。このオオタカは、腕にとまるとエサをもらえることを知っているから、ここに来るんだよ。



腕にのせたり体重をはかったりするのは新しい環境に慣れるための訓練だったのです。実はこの訓練はオジロワシの展示が始まる1ヶ月前から始まっています。オジロワシ自身のペースにあわせて徐々に変わってきたのです。今後の環境の変化にも対応できるように、訓練は今も続けられています。また、腕にのせることで病気やケガを早く発見することができ、治療をするのにも役立つそうです。

毎日体重をはかり、お腹のすき具合を確認します
うでにすえて体の異常がないかを確認します

18年前に交通事故がきっかけで保護されて以来、ずっと屋内のケージで飼育されていたオジロワシが新たな道を歩み始めました。人間社会に関わって傷つく動物がいることに気づいてもらいたい。また、野生の動物たちはさまざまな生き物がいる環境のなかで生きていく、日ごろ忘れがちなことを伝えるきっかけになればと飼育展示係は願っています。